

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 東京リゾートアンドスポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 矢野 洋美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 澤田正幸

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技能を十分持ちながら、常に変遷する社会に対して柔軟に対応するため日々研究を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

そして、学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、学内で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「スタートアッププログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などに通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振返り

・人間性を高める教育の実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真の社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各学科で重点教育項目を作成し、全教職員への目合わせを行うほか、学科会や主要科目会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるように計画している。また、関連施設実習にて高度な教育効果を目指し、企業連携を推進していく。

②学校関係者評価委員会コメント

- ・一部の生徒としか関わっていないが、挨拶などの重要性はすごく浸透されているのではないかと感じる。更に良くしていくためには、全生徒の挨拶が出来るようになることが良い。
- ・主体的に挨拶ができていないのではないかと感じる。
- ・企業や現場が求めている資質と学校教育で生徒が学ぶ内容は異なっているため、社会に出てみるとわからない部分であると感じる。そのような状況を踏まえると柔軟性という資質が必要なのではないかと感じる。
- ・企業に対し、学校側から積極的にヒアリングがあっても良いのではないかと感じる。企業が求める人材を送り込む上で、企業の声が反映された授業展開がされる即戦力となる人材育成につながるのではないかと感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・育成人材像が明確ではあるが、将来の出口が多様化しており、人材像と就職先を結びつける必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・業界理解を早期に行うことができるよう、関連施設実習などを早期化し職業意識を醸成する。
- ・業界への理解を深める内容をホームルーム、就職対策などで実施し就職先と人材像を結びつける。

③ 特記事項

- ・教育理念から人材育成をより体系化するべく三幸学園の教職員としてのビジョンを設定し、全教職員へ浸透している。業界ニーズを学ぶ為に、産学連携として、フィットネスクラブと提携を結び、業界の即戦力となる人材育成の為にカリキュラム等を共同開発している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・本質的には、生徒の自己責任であり、生徒次第の頑張りだと思う。本校の卒業生として学生時代を振り返ってみても、学校の先生方には大変良くして頂いたと感じている。
- ・スポーツの多様化に伴い、スポーツ業界で生きていく人材育成が必要な中で、コースに分けず、総合的な学習環境を設定すると良いのではなかと感じる。
- ・トレーナーやインストラクターとして専門職だけではなく、総合職としての力(マーケティング力・分析力)を身につける学習環境も必要かと感じる。

(2) 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・積極的に WEB 会議などを活用し、会議の効率化を図っている。
- ・姉妹校との連携、情報の共有を行っている。
- ・グループウェアや共有サーバー等の導入による活発な業務効率化を図っている。

② 今後の改善方策

- ・情報公開の在り方や、より理解しやすい情報の公開方法を最優先に考え、必要な情報や不必要な情報の精査を図り、組織に必要な情報を共有していく。
- ・簡易的方法で情報の公開や共有をリアルタイムに実施していく(WEBを活用)。

③ 特記事項

- ・年に 3 回の全教職員の会議を行い、運営方針の浸透や情報共有を積極的に行っている。
- ・会議の中で意見交換なども時間の許す限り行い、学校運営に反映している。
- ・WEB 会議を通じて、タイムリーな各姉妹校との情報共有や課題に対する施策なども行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・池袋という立地を踏まえてたとしてもコンプライアンス体制等も十分整備出来ているのではないかと。
- ・高校生は狭い視野で進路選択を考えているので、新しいコースでどのような学びが出来るのか、将来はどのような所で活躍をしているのかなどを高校教諭は把握していないので、高校の先生方に学校の学科やコースを伝えるような場を設定出来たらよいのではないかと。

(3) 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・教育目標や育成人材像を設定していくにあたり、社会の動向や業界のニーズに基づき、更なる精度を高める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関係性を高めることで、業界の動向を正確に把握する。その為にも、企業様や業界団体にも当校のことも理解して頂けるように、イベントの参加や企業様との連携を深めていく働きかけを続けていく。
- ・収集した情報を多面的に評価及び精査し、教育課程の編成に活用できる仕組みを構築する。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、スポーツ分野におけるビジョンを「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材を育成する」と設定し、全教職員への浸透を実施している。業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業側がどういった教育を望んでいるのか、様々な情報交換を行い、企業の声カリキュラムには反映することで、生徒満足度も向上するのではないかと。
- ・フィットネス業界のトレンドや現状としては、所属インストラクターが退職し、独立している現状が多い。スポンサー協力もいただき個人事業主が多い状況ではなるが、今、破綻している個人事業主が増えてきている。技術や人気、知識だけでは成功せず、本質的には経営的な部分もしっかりと学ぶ環境設定をしないと学生もスポーツ業界で長続きしないのではないかと。

- ・ 専門学校で学ぶ年数は、2 年が妥当だと感じる。改めて母校には感謝したい。
- ・ 高校側の立場としては、学校生活の状況が一番気になる状況で、是非そのあたりの情報提供を頂けると、高校側での教育方針・内容の見直しも図れるのではないかと感じる。また、受け身な生徒が多い状況があるので能動的な生徒として成長出来るような環境を設定して欲しい。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・ 資格試験の受験率及び資格取得率の更なる向上(昨年度比較で受験率、合格率10%以上向上)。
- ・ 退学率低減に向けた教務 TEAM を発足し、重点的な生徒指導方法を確立
- ・ 大手就職企業への就職内定を取る為の、様々な施策の実施
- ・ 卒業生の社会的な活躍の情報収集と教育活動への反映。

② 今後の改善方策

- ・ 資格取得に向けた動機づけ及び対策を統一してクラス毎に実施し、模擬試験等の結果を共有
- ・ 職員会議による定期的な生徒情報共有による、生徒指導の確立と、全教職員の生徒指導スキルのボトムアップ
- ・ 就職校内ガイダンスの実施、就職決起大会、就職模擬面接の実施。
- ・ 大手企業希望者に対する、質の高い就職指導プログラムの構築・提供
- ・ 各クラス生徒状況報告を月一実施し、退学防止報告書を退学予兆の時点にて作成し、傾向や今後の対策に活用する。
- ・ 卒業生の活動状況の情報収集と把握

③ 特記事項

- ・ 平成28年度進路決定率(進学者含む): 90%(平成29年 3 月 31日現在)
- ・ 平成29年度退学率目標 5.4%
- ・ Sanko Link(同窓会サイト)の設置による卒業生とのコミュニケーションを充実

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 模擬面接で関わらせて頂く機会において、まだまだ未熟な生徒に対して早期から企業の立場で関わる事が出来ている。今は、人物重視で採用を強化しており、世の中でも学生に対して支援やサポートの観点で人材を見ている企業も多いのではないかと感じる。
- ・ 人間性やリーダーシップ力によって、組織の士気やモチベーションが変わるのではないかと感じる。そのような環境設定をすることで、充実した学生支援も可能なのではないかと感じる。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
中途退学者への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・入学時の卒業後の進路と実際の進路のギャップが生じている。
- ・卒業生に対して、SNSを活用した案内は出来たが、具体的なアクションには至っていない。

② 今後の改善方策

- ・業界のニーズと生徒のニーズに合わせた進路指導の実施
- ・SNSによる卒業生への定期的な情報配信を実施

③ 特記事項

- ・保護者へ電話での一斉連絡を学期始めに実施(担任による)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学時と卒業後のギャップを埋めるためにも、放課後等を活用し、学生が進路や将来を理解できる時間を取れたら良いと感じる
- ・就職支援に関して、学生が主体的に求人を見ることができるシステムがあると良いのではないかと。
- ・現状の課題として、担任力の差から、生徒へ伝わる求人に関する情報量に差が生まれている現状がある
- ・これからの少子高齢化で人材採用確保が困難になるので求人等を同窓会サイトに掲載頂きたい。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する。
- ・生徒のニーズに合わせたインターンシップ先の確保と整備。

② 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する。
- ・生徒のニーズに合わせたインターンシップ先の開拓。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・1年間の中で、防災や自然災害に関する対策を実施した方がよいのではないか。学生自身が人生の中でも危機管理能力を学ぶ機会ほとんどないと思うので、そのような機会を設定した方がよい。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
入学選考は、適性に行われているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に、学生の母校等に情報を提供出来ていない。

入学前段階で、学生の能力に適した学習の難易度等を伝えられていない。

② 今後の改善方策

首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方へ状況を伝えてもらう。出身校に特記事項を事前に共有してもらう。たとえば、発達障害などがある際には、程度を伝えてもらう。また、学校の広報担当者が、高校訪問を行い、学生の様子を直接伝える。

③ 特記事項

学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている。

学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握して上で決定している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ 入学募集において、理想と現実の両方を説明頂けると将来社会に出て学生が困る事がなかったり学生の為にもなるのではと考える。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

- ① 課題
 - ・更なる法令遵守の推進・問題点改善に当たっての取り組み強化が不十分
- ② 今後の改善方策
 - ・会議や掲示などを通して、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図ると共に、役職者にて随時、取り組みの進捗状況の把握に努める。
- ③ 特記事項
 - ・平成 26 年度自己評価結果により公開を開始。
- ④ 学校関係者評価委員会コメント
 - ・生徒の個人情報の取り扱いは、企業、学校共に十分留意していく必要があるのではないか。
 - ・教職員に関しても法令遵守に向けて様々な啓蒙活動を実施していく。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

・地域に対する公開講座について、卒業生のフォローアップ研修の要素が強い講習会が多く、地域や一の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

・地域在住の高齢者や子ども達を対象に、本校生徒が学ぶ内容を活かした公開講座を積極的に実施していく。また、地域と連携を図り、何か事業展開を起こす等、取り組み内容を強化していく。

③ 特記事項

・豊島区主催の「としまスポーツまつり」で、当校の学生が高齢者向けの健康体操や子ども向けレクリエーションなどを実施し、区からも高い評価を受けている。また、昨年度は障害者スポーツ団体とも連携し、障害者スポーツの認知にも協力することができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学校主催の生徒が地域に貢献する取り組みはなされているのか。もしそのような機会をもっと多く取り入れると生徒の主体性や成長も感じられるのではないか。
- ・地域に施設を開放し、スポーツに限らず、様々な場を提供出来れば更に学校の認知度も上がるのではないか
- ・最新施設等を兼ね備えているのであれば、是非地域に開放し、使用してもらってはどうか

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・留学生に対して、資格取得や就職までの案内など、積極的な募集活動を行えていない現状がある。

② 今後の改善方策

- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施を増加させる(留学生用募集要項の作成)
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する。
- ・母国語の話せる職員の配置を姉妹校含めて検討する。
- ・日本語学校への入学案内を積極的に行う。

③ 特記事項

- ・平成 26 年度から「留学生学費減免入学」制度を導入している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各教員間において、リアルタイムの情報共有と連携を図ることにより、担任力の強化や学校全体として教務力の向上をに力をいれて行き、退学率の低減を確実に進めて行く。また、教育内容の充実と質の向上を目指し取り組んでいくことが必要である。その為にも教員自身一人ひとりが責任感をもって行動することが大切である。学校の取り組みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

学校関係者評価委員会コメント

- ・ 担任力の向上や統率力を強化していく事が、東京 R での課題となる事、業界との連携をしっかりと図る事で更により良い学校になるのではないかな。
- ・ 就職率 100%になるよう、高校側は是非進学先には期待をしたい。進学後、社会に出るための指導を継続してほしい
- ・ 学ぶ環境を常にきれいにしていく必要がある。社会に出ても大企業の施設はとても綺麗だと感じる為。学生には、先ずは、施設の環境についても意識して、日々の学校生活を過ごして欲しい。
- ・ 危機管理という部分を是非学生には伝えていって欲しい。また、専門学校卒とはどうゆう立ち位置なのか、という事をよくよく考えると、先々の現実を踏まえた、自分の将来の立場を明確に出来るのではないかな。
- ・ リゾスポらしさや強みを持った人材を育成する事で、業界へのアピールに繋がるのではないかな。
- ・ 企業と学校がコラボレーションをして何かを作り上げる事が出来れば、学生の満足度も高く、就職にも繋がるのではないかなと感じる。今後も弊社と共に、業界に繋がるような取り組みをしていきたい。